信大韓国語講座主催第1回韓国研修旅行報告

延　鎮淑（よん　じんすく）
（信州大学　共通教育センター　外国人教師）

1．はじめに

ハングルを受講する学生は、言葉だけでなく、韓国の文化と歴史はもちろんのこと韓国に住んでいる人々にも大きな関心を持っている。最近、日本では、数年前に比べて韓国に関する情報が、かなり目につくようにはなったと思うが、それは私から見て、ある意味で偏っているふしもある。中には誤解を招きかねないものもある。このような情報に頼るよりは、日本から最も近い国内旅行の感覚で行ける国でもあり、また学生たちからの強い要望もあって、実体験の出来る韓国の修学旅行を計画した。

2．旅行の目的

まず、授業で習った韓国語を現地で使ってみようということを第一にあげる。韓国に行って、目に入ってくる韓国の文字が読めるという喜びや言葉が通じる喜びが体験出来れば、もっと韓国語を勉強したいという意欲がわいてくるのではと思った。また、日本の中には韓国に対して、偏見を持っている人々がいる。学生の中にも偏見を持っている者がいないわけではない。偏見は、相手について知ろうとせず、何の根拠もなしにただの偏見を持っている場合が多いと思われる。相手を知るためには、相手と接してみることが大事である。そこで、韓国の有りのままの姿を直接見、経験し、その偏見をなくして、友好を促進する機会になれば、いいと思った。

3．旅行の概要

旅行の計画については、旅行の実行半年前から口頭で説明し、出発の2ヶ月前に募集を始めた。希望者は大勢いたが、日程の都合で最終的に16名になった。この中にはハングルの学習経験のない学生も含まれている。

期間：2000年3月21日~2000年3月28日（7泊8日）
対象：韓国関係の講義を受講している学生
人数：16名（人文：8名　経済：5名　農：3名）
費用：6万5千円（飛行機往復運賃、宿泊、食事、入場料）

４．旅行日程と研修内容

１）１日目（３月２１日）

午後4時30分、学生たちの乗った名古屋発１４時３０分のOZ121便が無事にソウル金浦空港に到着した。私は二日前に韓国に入国して、空港で学生たちが入国手続きを終え、出てくるのを待っていた。学生たちが出て、空港でメンバー全員の顔合わせをした。初対面の人も少なくなかった。こうして研修旅行は始まった。

初日、移動手段は地下鉄だった。電車は折から夕方のラッシュと重なり満員だったので、大勢での移動は容易ではなかった。地下鉄に乗ってみると、聞こえてくるのは韓国語ばかりで、しばらくすると、ライターを売る人が現れて商売を始める。日本ではあまり見られない光景なので、学生たちは、やはり韓国に来ていると改めて実感したようだった。

夕食は、ちょっとしたパフォーマンス[2]を見せてくれる焼肉屋にした。何回でもお代わりができるキムチにみんな大満足していた。学生たちは店の人に韓国語でお礼が言えた。食事が終わると、宿泊先へ向かった。ソウル市内の鐘路３街にある旅館である。３人が１グループになり、相部屋に泊まった。旅館が日本とは違う雰囲気でみんな驚いて、興味津々に他のグループの部屋を約束でもしたように見回っていた。初めてオンドル（床暖房）も体験でき、とても喜んでいるようすだった。

２）２日目（３月２２日）

朝食は、宿泊先の前にある屋台でトーストを食べて簡単に済ませた。飲み物など身の回りの買い物は、学生たちがそれぞれ各自でやることにした。韓国は消費税がないので、その用意をしなくてもいいから楽だと言う学生も中にはいた。

９時にタップコル公園で韓国の漢陽女子大学日語通訳科の学生と待ち合わせをした。一日中交流を兼ねて、ソウル市内の案内をしてもらうことにしていた。注意事項を聞いた後、それぞれグループに分け、グループごとに自分たちが決めた目的地に向かって出発した。

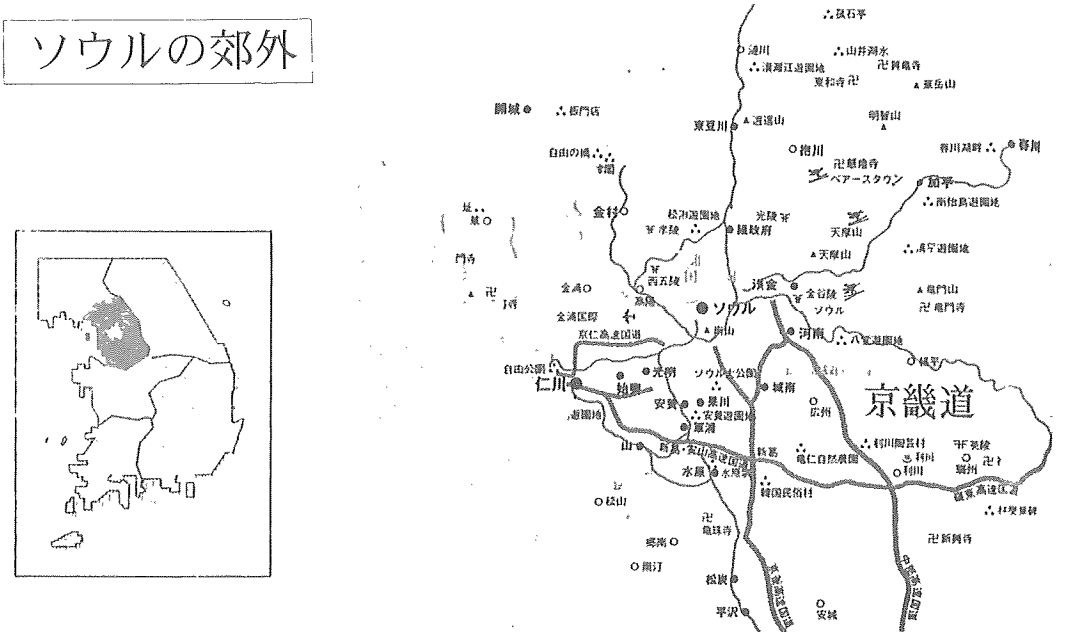
集合は、午後５時同じ場所にした。帰ってきたみんなの顔には変化が見えた。出発の時は初対面だというせいもあって、表情が硬かったが、集合のときは、皆楽しさいっぱいの顔だった。解散の後も、写真を撮ったり互いのアドレスを交換したり大変いいムードで私までうれしくなった。

国際交流という言葉をよく耳にするが、本当の国際交流の始まりは個人と個人の交流からだとつくづく思った。同じ年代の外国人と話すことは、貴重な体験になるにちがいない。学生たちは、この企画を通して日本と韓国の大学生の違いがよくわかるようになり、案内をしてくれた学生たちの日本語の実力に刺激を受け、自分たちももっ

と韓国語の実力をアップしようと決心する姿も見えた。実際に現地で韓国人に触れることにより、“色々な話を聞いて韓国についてわかって来た、今まで思い込みで見ていた韓国についての見方が変わった”と言っている学生もいた。

夜は、韓国の国際交流支援団（国際交流支援活動及び、通訳・翻訳奉仕活動団体で在韓外国人に正しい韓国のイメージを与えるための民間奉仕団体）が開いてくれた歓迎会に参加した。この会は和気藹々の雰囲気でいろいろな話ができ、参加者皆大満足をしたようだった。団員たちの力強さを感じ、私も頑張るという気にさせてくれたようだ。

ソウル付近



３）３日目（３月２３日）

みんなが待っていた韓国と北朝鮮の国境である板門店を見学する日が来た。前日、ジーパンは着用できないとの情報が入り、ズボンを購入した学生もいた。理由は、一言でいうと板門店は遊び場ではないとのことだった。

韓国人が板門店に行くためには、特別な許可が必要なため学生たちだけの見学になった。ソウルからガイドがついていたので、学生たちも安心して出発することができた。現在、韓国と北朝鮮は、初めての首脳会談の後、離散家族の面会や長官級の交流など平和に向けての動きが活発である。しかし、見学の当時は、そういう動きが全然

なかったためか戻ってきた学生たちの表情は国境の緊張感を物語っているように見えた。

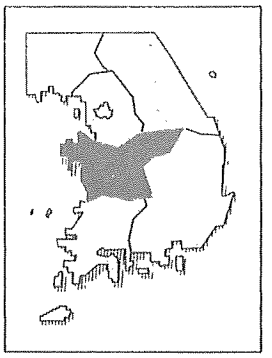
学生の話によれば、板門店に着くと、まず如何なることがあっても責任を問わないという誓約書を書かされるし、持ち込みにも制限があり、北朝鮮軍を刺激する恐れがあるからという理由で傘すら禁止になっていたそうだ。

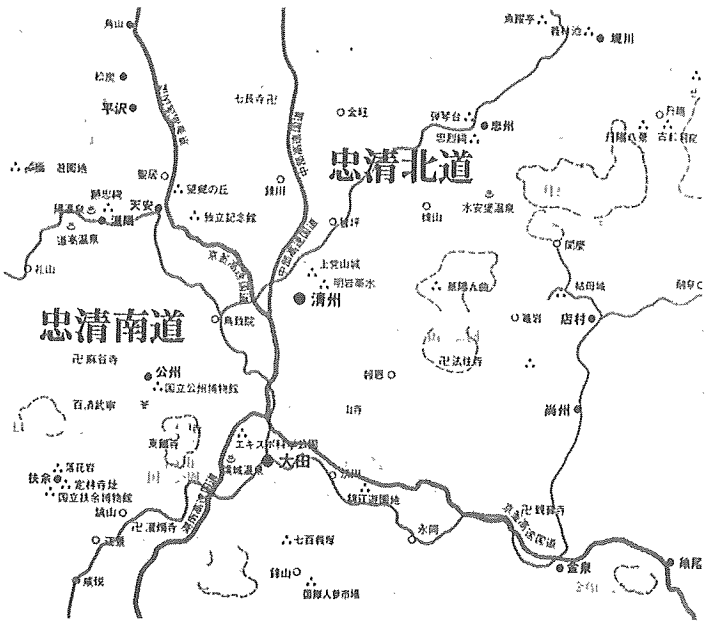
歴史の授業で国境線については勉強したが、聞くのと実際に行って見るのとはまったく違っていて、当たり前のように思っていた現在日本の平和のありがたさを改めて感じる機会になり、そして学生たちは一日でも早い統一を願う人々の気持ちが理解できたようだ。今回の旅行で最も満足度の高い体験になったようである。

４）４日目（３月２４日）

ソウルから離れ、貸切バスで忠清南道の天安にある独立記念館へ向かった。この記念館は、外国の侵略に抗して民族の自主と独立を貫いてきた朝鮮民族の国難克服史と国家発展史に関する資料を収集、展示することによって、国民の民族精神と国家観を確立することを目的として１９８７年に建てられた記念館である。

中部地域
（独立記念館・清州）





この記念館では、韓国の民族性はもちろん歴史を一目で把握することができる。日本からの高校生修学旅行団体もよく訪れるところでもある。学生たちに一番印象に残

っているのは、やはり植民地時代の歴史展示館のようである。歴史の授業などでは聞いたこともない事実に衝撃を受けたようだった。過去の歴史をめぐって日・韓の間には、様々な問題があるが、個人と個人の交流には何の障害もなく、個人レベルの交流が両国の交流の改善に繋がっているのである。

独立記念館を出て、清州へ向かった。清州は私の出身地でもあって、ここでパックツアーでは経験できないことを色々企画した。まず、銭湯を体験してもらうことにした。銭湯では、垢すりもしてもらった。隣の人が冷水を汲んでくれたり、親切にしてもらって、お互いに言葉は通じなくてもうれしかったと言っていた。その後、美容院に行きたいグループと眼鏡の作りたいグループに分かれて行動をした。特に美容院は腕もいいし、何より日本の１０分の１の料金でカットができるところから特に希望者が多かった。

５）５日目（３月２５日）

朝食の後、慶尚南道の慶州に向かって出発した。慶州は朝日の光が最も早く照り輝く土地と言われ、新羅王国時代の都であり、新羅が三国統一を成し遂げた当時には朝鮮半島全体の中心地でもあった。数多い遺跡と国宝を保有し一千年の新羅の歴史を伝えてきたところである。「壁のない博物館」とも言われている。

慶州に到着したのは、午後２時過ぎだった。先に「韓国餅のまつり」に行った。韓国伝統の御餅とお酒が展示されて試食も出来る祭りだった。ここでは、日本のものとは異なる色々な種類の御餅を試食して、一部の学生は韓国伝統の遊び[3] も体験した。日本の祭りと比較をしながら韓国の祭りの雰囲気を味わうことが出来た。

慶州見学の初日を終え、二日間泊まる予定の通度寺に向かった。長時間バスに乗って移動したので、学生たちは疲れが出たようで車中眠っている者も多かった。40分後、お寺に到着した。周りは山ばかりで何もないところだった。お寺でお坊さんたちと同じ食事をしてから部屋に案内された。大きい二つの部屋に男子と女子に分かれて泊まることにした。

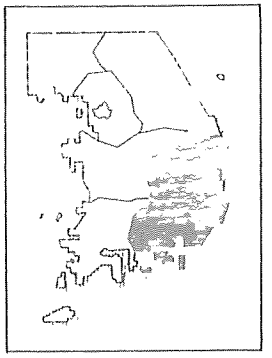
大きい部屋でみんないっしょに寝て、いろいろな話が出来、親密さがぐんと増した。

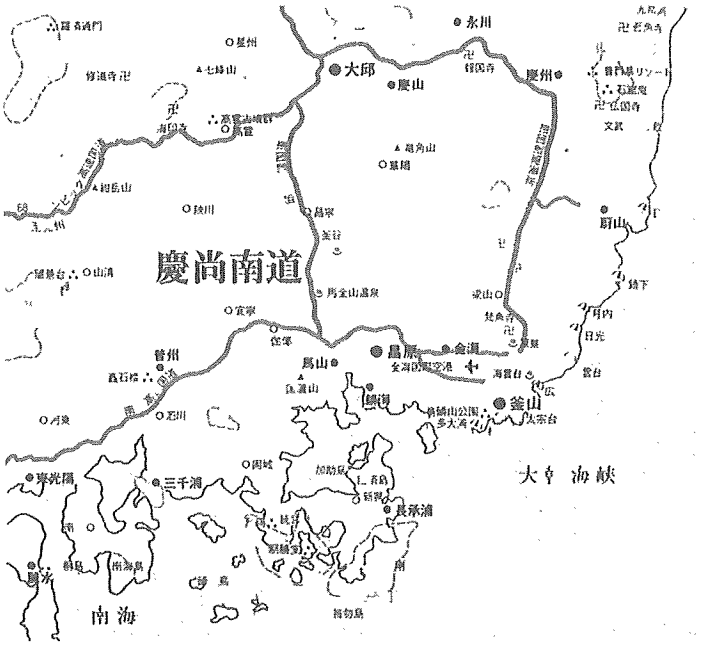
６）６日目（３月２６日）

通度寺では明け方、礼拝が行なわれていて、学生のうち何人かはそこに参加をした。午前中は、お坊さんの法話を聞いたあと、お坊さんに死後の世界や輪廻などについて日頃疑問に思っていたことを数多く質問してとても充実した時間となった。その後、お寺の中を案内してもらった。通度寺は、韓国仏教曹渓宗の本寺であり、仏陀の眞身舎利を所蔵しているため韓国三宝寺刹の中の仏宝宗刹でもあるそうだ。うっそうとした森林を背景にして大雄殿など建築物が70もあった。お坊さんが詳しく親切に案内をしてくれて楽しく見学が出来た。

昼食はお寺で済まして再び慶州へ向かった。先ず訪れたところは石窟庵だった。高さ3.48mの如來坐像が安置された石窟庵は751年、当時宰相だった金大成によって創建された。国宝に指定された石窟庵は韓国仏教芸術の代表作で世界的にその評価が高い。

東南部地域
（慶州・釜山）





入口から石窟庵までは、散歩道になっていてみんな学校にいるときとは違って、活気の溢れる顔をして清清しい面持ちで歩いた。石窟庵を見学した後、新築の仏教会館法堂の屋根に使う瓦に今回参加したみんなの健康を祈って、それぞれ記名をした。石窟庵を出ると、土産物屋がたくさん立ち並び、そこをのぞいてみることにした。日本人観光客が多いため日本語が話せる店の人が、日本人だと知って、学生たちに日本語で話しかけてくる。学生たちは、自分たちが覚えた韓国語で話をしていたので見ていて微笑ましい気持ちになった。

次は、石窟庵と同じ時期に立てられた仏国寺に行った。新羅時代の仏教信仰の深さと芸術魂が融和されて造られた寺だ。元々は木造建築であったので、一定期間をおいて現在まで再建を重ねてきた。

この後、古墳公園を観覧した。新羅時代の王族の古墳群がこの公園にあるが、特に天馬塚が有名である。1973年の発掘当時発見された副葬品の中に白樺の皮に描いた五色燦爛の天馬図にその名は由来している。この塚の中からは約一万点の遺物が出土し

た。現在、塚の中は遺物出土当時のまま再現されている。学生たちは古墳の作り方や遺物などを日本のものと比較しながら真剣に説明を聞いていた。新羅時代の古墳は、大きいドームのような形をしているのが特徴である。当時は、この古墳より高い家を建てるのは禁止されていたそうだ。公園の近くで食事をして宿泊先のお寺に戻った。

７）７日目（３月２７日）

釜山の海辺で日の出を見るために寺を朝5時に出発した。釜山に着いたのが6時過ぎで、日の出はまだだった。風も強く、寒かったが、兄弟のようにみんな体を寄せ合って寒さを凌ぎながら日が出るのを待った。6時30分、日の出が始まった。

ゆっくり昇ってくるまぶしさを感じさせない太陽は幻想的だった。私を含めて実際に日の出を見るのが初めての人がほとんどで、みんな感激して歓声をあげた。早起きは辛かったけど、早起きする価値は十分あったとみんな喜んだ。

朝食を済まして太宗台に向かった。太宗台は影島の東南端の突き出した岬にある公園で、新羅の太宗武烈王が三国統一の基盤を固めた後、この場所で休憩をとったことからこの名が付けられたと言う。天候のよい日は、対馬も見られるということで、期待していたが、あいにく対馬を見ることは出来なかった。この公園には、自殺が絶えない場所があって、そこに親子の銅像を立ててからは、自殺をする人がなくなったという。

近くの海岸で少し休んだあと、チャガルチ市場に行った。この市場は韓国戦争以来、女性が中心となる市場形態を作ってきた。ここは釜山の人々の生活力を感じることの出来る韓国最大の魚市場だ。市場全体を見回ったあと、自由行動時間にした。旅行の最後の日でもあったので、買い物が目的だった。集合したときの買い物袋を見ると、最近日本で人気のある岩のりが一番多かった。私と行動を別にしたグループが通訳なしに自分のほしいものを買ってきたことには感心した。市場で夕食をとって、次の日、日本への出発のために国内線飛行機でソウルに戻った。

宿泊先に着いて旅行に参加したメンバー何人かが親睦会の組織を作り始めた。会長が決まり、副会長が決まり、連絡網まで出来上がった。早々に第一回目の親睦会の日まで決まった。一日目には知らない人同士だった学生たちは、いっしょに旅行し行動を共にする間に、仲良くなって明日で別れてしまうのはさびしかったようだ。

８）８日目（３月２８日）

旅行日程の最後の朝食が終わって空港に向かった。朝食の時間はいつもより静かな印象を受けた。きっと、みんな家に帰る喜びよりもみんなと別れるさびしさの方が大きいのだと思った。金浦空港に着いて無事手続きを終えて、日本に帰った。

5．まとめと反省

第一回の研修旅行が無事に終わって、参加した学生や意味深い旅行が出来るように協力してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいである。

参加した学生はお互い見ず知らずの人ではあったが、旅行の後半では非常に仲良くなっていた。日本に帰ってきてからもその付き合いは続いていて、親睦会はすでに2回開かれた。

旅行の内容の面では、韓国の歴史、大学生との交流、現代の様子など、韓国の様々な部分を体験することが出来てよかったと思う。学生たちが何事にも積極的に興味を示して参加をする姿はうつくしくさえ見えた。

今回の旅行の後、学生たちの韓国に対するイメージが変わったこと、生きたハングルを積極的に使おうとする学生が多く現れたこと、また、今までハングルに接したことのない学生の中からハングルを習い始めた学生が数人出たことは大きな成果だと言える。また、当たり前のように思っていた日本を新たに考え、客観的な目で見直す契機にもなった。

反省としては、初回ということもあって、出発の準備や日程がスムーズに実行できなかったことを挙げられるだろう。そして、私が旅行の間、ガイドと通訳を務めていたわけだが、歴史の遺跡地を見学する際、案内文に書いてあるもの以外に、もっと詳しく説明が出来なかったことが悔やまれる。以上のことを参考にして、これからの研修旅行は、もっと有益な旅行にしたいと思う。

【注】

1．ハングルA,B,C,D、ハングルとハングル圏の文化、朝鮮文化事情、朝鮮言語文化特論

2．お店の人がお肉を焼きながらこしょうや塩が入っているビンを投げたり、まわしたりする。

3．板跳び：陰暦の正月に若い女性が楽しむ遊戯。長い板に中央の下にわらを丸めたものを支え台として置き、板の両端に人が乗り交互に跳ね上がったり降りたりする。

【参考文献】

李　杜鉉、張　籌根、李　光奎（1978）『韓国民俗学概説』普成文化社
韓国観光公社（1994）『韓国トラベルマニュアル』ソウル新聞社
大韓民国海外広報館（1994）『韓国のすべて』白帝社
油谷幸利、門脇誠一、松尾　勇、高島淑郎（1993）『朝鮮語辞典』小学館

旅行の感想

旅行の8日間は、朝から晩まで動き回って、実際の韓国に触れることが出来てとてもよかったと思います。中身の詰まった旅行で、すごくいい思い出になりました。（人文１年）

最終日に2時間ほど自由時間をもらったのですが、非常に楽しかったです。少人数で歩いていると、韓国人と日本人が似ているので、自然と町に溶け込むことが出来、団体行動をしているときと違い、外国にいることを実感できました。日本語が通じないところで、片言の韓国語と英語で買い物は出来たときは、海外旅行の醍醐味を感じました。（人文2年）

慶州は古墳がいっぱいある町で、初めてバスから見たときは、何だかわからなくて不思議だった。お寺の天井は緑や青を中心とした色で、沖縄と似ていると思った。やっぱり竜が建物を守っている。夕食は石焼ビビンバだった。とにかくおいしい。夜、部屋でおしゃべりするのが楽しい。旅行をすると仲良くなれる。（人文3年）

漢陽大学の学生さんとソウルを歩いた。けっこう緊張したんだけど、すごくいい人達で、色々話せて楽しく過ごせた。来年もこういう事をやると、とてもいいと思う。やはり、実際に人と話が出来る機会があるといい。（農学1年）

石窟庵

信大韓国語講座主催第１回韓国研修旅行日程
2000年3月21日－2000年3月28日（7泊8日）

3月21日（1日目）

17：00	ソウル着
19：30	夕食
21：00	宿泊先　ケミョン旅館到着

3月22日（2日目）

9：00	タプコル公園へ移動
9：30	グループに分け漢陽女子大生と交流
17：00	グループ集合
18：30	国際交流支援団の会員と夕食会
21：00	宿泊先　ケミョン旅館到着

3月23日（3日目）

9：30	ロッテホテル到着
10：00	門店へ出発
17：00	ロッテホテル到着
19：00	買い物後、ソウルタワーのレストランで夕食
21：00	ドンデムン市場へ
23：00	宿泊先 ケミョン旅館到着

3月24日（4日目）

8：00	天安へ出発
10：00	独立記念館見学
12：30	忠清北道　清州着、昼食
14：00	自由行動
19：30	夕食
21：00	宿泊先　シュリ旅館到着

3月25日（5日目）

9：30	慶尚北道　慶州へ出発
12：30	昼食
14：00	慶州着　おもち祭り見学
17：00	宿泊先　慶尚南道　通度寺到着、夕食

3月26日（6日目）

9：00	通度寺見学
12：00	昼食
13：30	石窟庵見学
15：30	仏国寺見学
16：30	古墳公園見学
17：30	夕食
21：00	宿泊先　通度寺到着

3月27日（7日目）

5：00	釜山に向かって出発
6：30	日の出を観る。
7：20	朝食
9：30	太宗台
11：30	釜山タワー、チャガルチ市場
19：50	金海空港から国内線飛行機でソウルへ
20：50	ソウル着
21：00	宿泊先　空港旅館到着

3月28日（8日目）

9：30	朝食
10：20	ソウル金浦空港到着
12：00	名古屋へ出発
13：30	名古屋着　解散